

バリー先生の思い出

短期大学を卒業して四谷の英文学科に編入後、日本橋にある百貨店に就職しました。

男女雇用機会均等法施行の少し前のことです。

幹部候補生としての本社採用でしたが、最初の数ヶ月は厳しい売場研修でした。

高卒の若い同僚と一緒に、大きな商品を移動しているとき、

偶然、バリー先生が来店されて、店内でばったりと出会いました。

商品倉庫と売り場の往復で疲れきった顔をしていた私を見て、

先生はすぐに気づかれ、「お久しぶりです。お元気ですか？」と声をかけてくださいました。

私は覚えていてくださったことに驚くやら、自分の姿が恥ずかしいやらで、

しどろもどろに仕事の大変さを口にしていただけたのだと思います。

先生は、変わらない温かい眼差しで、「そう、大変です、でもがんばります、ね」とおっしゃいました。

その言葉は今でも忘れられません。

それからしばらくして、社長室に異動し通訳・翻訳が主な仕事となり、

ダイアナ妃が来日・来店されたときはアテンドを任されました。

仕事に慣れなくて、一番辛かったときを支えてくださったバリー先生の一言がなかったら、

きっと途中で挫折していたことでしょう。

「大変です、でもがんばります」

人生で苦しい場面に出会ったとき、この言葉と先生の笑顔を思い出してきました。

それにしても、先生、アメリカへのご旅行の前に、歯ブラシを買いにいっちゃったんですよ（笑）

5期

平野（賀川）由紀子